

報 告 事 項

4郡セ第633号

令和4年8月5日

各 部 局 長
会 計 管 理 者
各行政センター所長

総 務 部 長
市 民 部 長

交通事故ゼロに向けた取組の結果について（通知）

このことについて、下記のとおりセーフコミュニティ活動に基づく全庁的な取組として実施したアンケート調査結果と7月の交通事故防止強化月間の結果をお知らせします。

交通事故防止の参考とされますよう、会計年度任用職員を含む全職員へ周知願います。

記

1 アンケート調査の結果について

セーフコミュニティ活動に基づくアンケート調査の結果は、別紙資料のとおりです。

※資料掲載場所：掲示板（[市民部](#)>[セーフコミュニティ課](#)>[セーフコミュニティ推進室](#)）

ヒヤリハット体験事例から、事故を回避できた理由として、「予測運転」と「減速・徐行運転」をあげ方が多く、事故を防ぐために効果的であると考えられます。収集した危険箇所をマップに示しましたので、併せて確認し、事故の未然防止に努めてください。

2 7月の「交通事故防止強化月間」の結果について

「交通事故防止強化月間」中の職員の交通事故発生件数は、計10件でした。

引き続き「郡山市職員運転業務必携」及び「交通事故多発地点マップ」を再確認し、一層の交通事故防止に努めてください。

【参考】職員の交通事故発生件数（7月）

	2021年7月	2022年7月
加害等	5件	7件
被害	4件	3件
計	9件	10件



【事務担当】人事課 管理係（2041）

セーフコミュニティ課 セーフコミュニティ推進室（2151）

令和4年度交通事故ゼロに向けた取組状況のアンケート結果について（4～6月分）

【目的】

「セーフコミュニティ」の理念に基づき、現状や課題から具体的な事故防止対策を実践することで、職場や職員一人ひとりが「交通事故ゼロ」を目指します。

【調査期間】 2022年6月30日（木）～7月15日（金）

【調査対象期間】 2022年4～6月

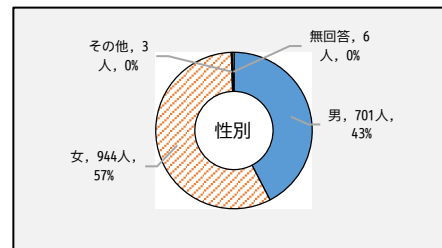
【回答数】 1,654人/3,455人 回答率 47.9% （会計年度任用職員を含む）

◇ 「交通事故ゼロ」に向けたポイント ◇

ヒヤリハット体験事例から、事故を回避できた理由として、「予測運転」と「減速・徐行運転」をあげる方が多く、事故を防ぐために効果的であると考えられます。普段よく通る慣れた道路でも気を緩めずに【3つの10運動】を心がけ、交通事故ゼロを目指しましょう。

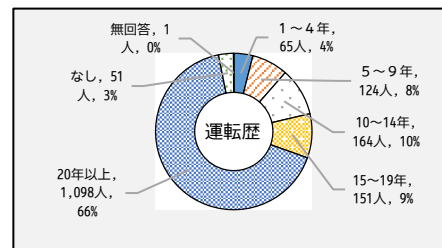
1 性別

	回答数	
男	701人	42.4%
女	944人	57.1%
その他	3人	0.2%
無回答	6人	0.4%
計	1,654人	100.0%

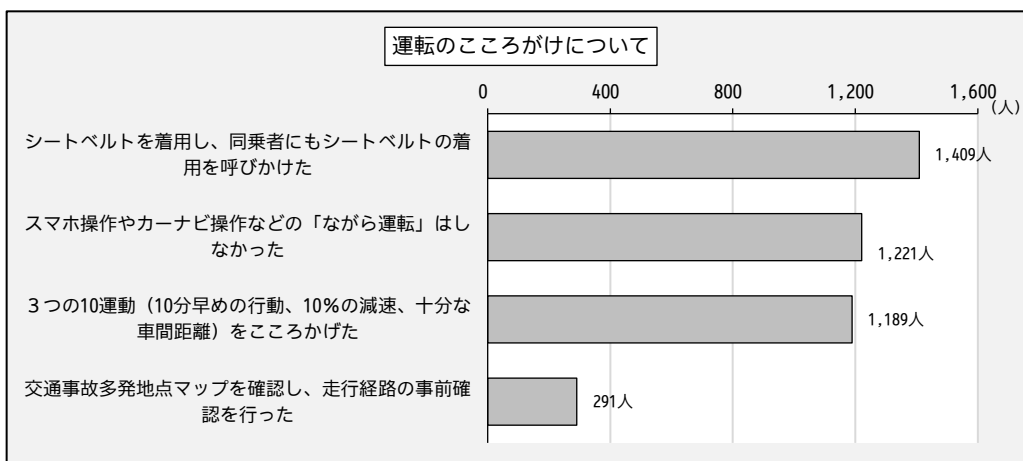


2 自動車の運転歴

	回答数	
1～4年	65人	3.9%
5～9年	124人	7.5%
10～14年	164人	9.9%
15～19年	151人	9.1%
20年以上	1,098人	66.4%
なし	51人	3.1%
無回答	1人	0.1%
計	1,654人	100.0%

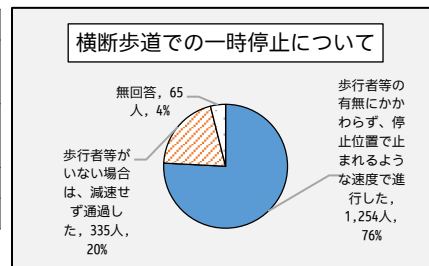


3 運転のところがけについて、実施できたものを選択してください。（複数選択）



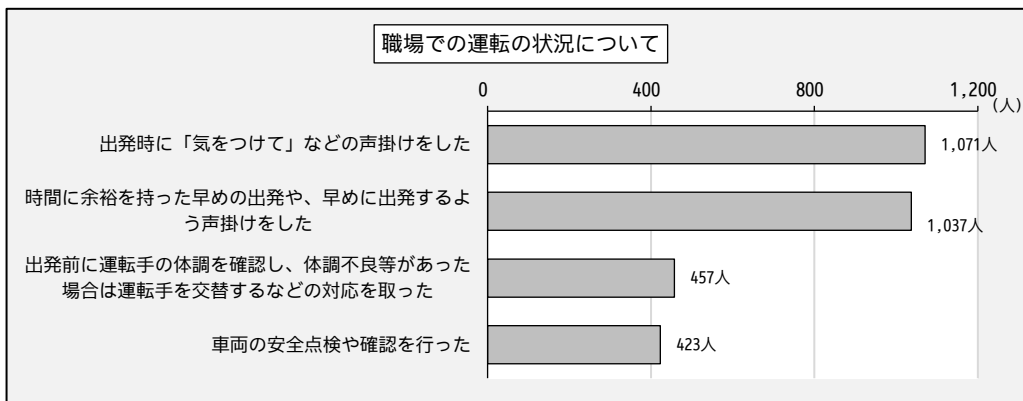
4 運転中、信号機のない横断歩道においてどのような行動をとっていましたか？（ひとつ選択）

	回答数	
歩行者等の有無にかかわらず、停止位置で止まれるような速度で進行した	1,254人	75.8%
歩行者等がない場合は、減速せず通過した	335人	20.3%
無回答	65人	3.9%
	回答対象者	1,654人 100.0%



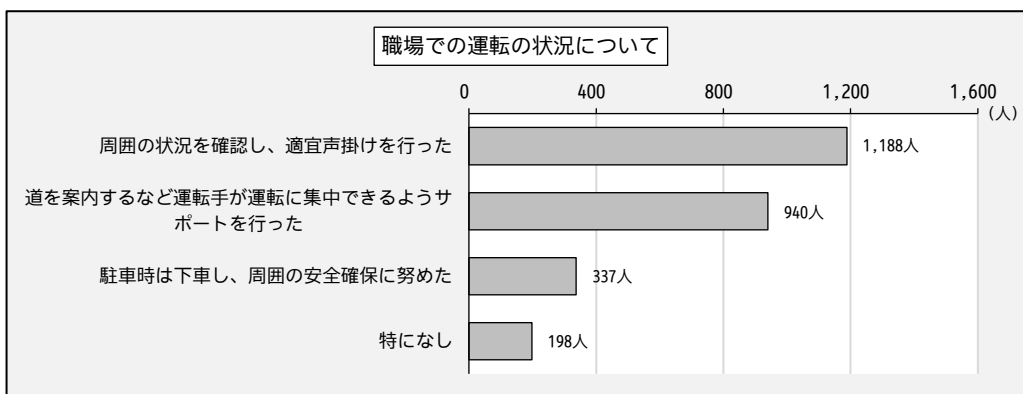
5 公務中に運転する際もしくは運転する者がいる際、職場ではどのようなことに気をつけていましたか？（複数選択）

	回答数	
出発時に「気をつけて」などの声掛けをした	1,071人	64.8%
時間に余裕を持った早めの出発や、早めに出発するよう声掛けをした	1,037人	62.7%
出発前に運転手の体調を確認し、体調不良等があった場合は運転手を交替するなどの対応を取った	457人	27.6%
車両の安全点検や確認を行った	423人	25.6%
	回答対象者	1,654人



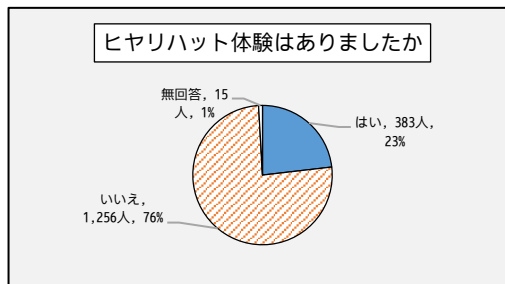
6 助手席等に乗っているときの行動について、実施できたものを選択してください。（複数選択）

	回答数	
周囲の状況を確認し、適宜声掛けを行った	1,188人	71.8%
道を案内するなど運転手が運転に集中できるようサポートを行った	940人	56.8%
駐車時は下車し、周囲の安全確保に努めた	337人	20.4%
特になし	198人	12.0%
	回答対象者	1,654人



7 事故が起こりそうであったが、幸いにも回避できた出来事【ヒヤリハット】はありましたか？

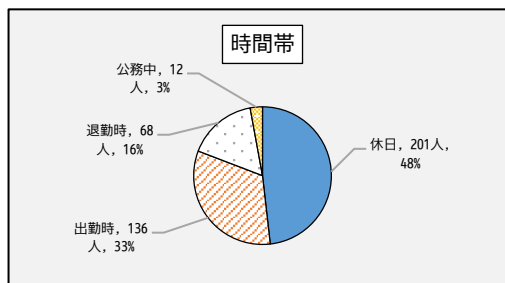
	回答数	
はい	383人	23.2%
いいえ	1,256人	75.9%
無回答	15人	0.9%
計	1,654人	100.0%



【ヒヤリハット】体験について

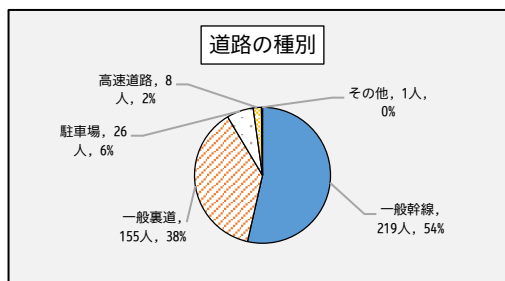
8 時間帯

	回答数	
休日	201人	48.2%
出勤時	136人	32.6%
退勤時	68人	16.3%
公務中	12人	2.9%
計	417人	100.0%



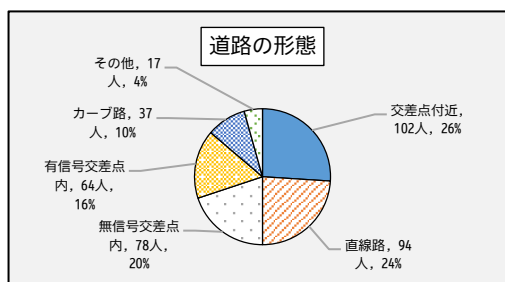
9 道路の種類

	回答数	
一般幹線	219人	53.5%
一般裏道	155人	37.9%
駐車場	26人	6.4%
高速道路	8人	2.0%
その他	1人	0.2%
計	409人	100.0%



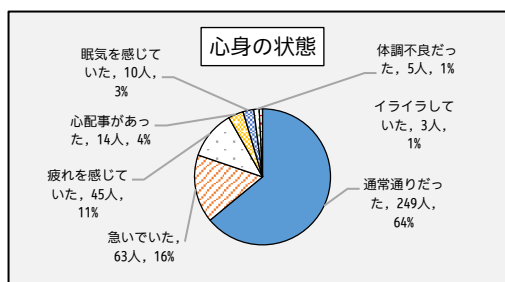
10 道路の形態について

	回答数	
交差点付近	102人	26.0%
直線路	94人	24.0%
無信号交差点内	78人	19.9%
有信号交差点内	64人	16.3%
カーブ路	37人	9.4%
その他	17人	4.3%
計	392人	100.0%



11 心身の状態について

	回答数	
通常通りだった	249人	64.0%
急いでいた	63人	16.2%
疲れを感じていた	45人	11.6%
心配事があった	14人	3.6%
眠気を感じていた	10人	2.6%
体調不良だった	5人	1.3%
イライラしていた	3人	0.8%
計	389人	100.0%

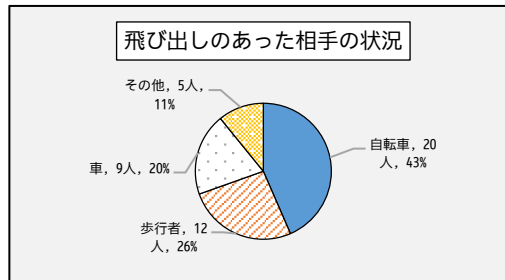


12 ヒヤリハット発生時の具体的な状況について

【原因別】

ヒヤリハット体験をしたと答えた383人のうち、具体的な状況について記載のあった239例について原因を大まかに分類したところ、【急な飛び出し】によるヒヤリハット事例が最も多く46例と全体の19%を占めていました。そのうち、「自転車」による急な飛び出しが20例と約4割を占めていました。

相手の状況	回答数	
自転車	20人	43.5%
歩行者	12人	26.1%
車	9人	19.6%
その他	5人	10.9%
計	46人	100.0%

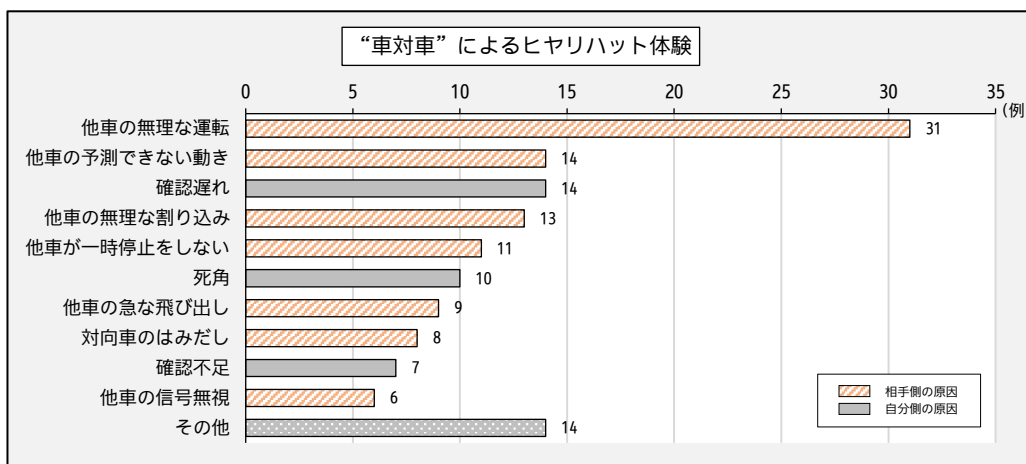


具体的な状況となぜ回避できたか

- ・脇道から急に車が飛び出してきて、自分の前に入ってきた。
⇒ スピードを出さず、よそ見もしていなかった為、とっさの出来事に対応できた。
- ・大通りを走行中、高齢者が運転していると思われる車両が急に横道から飛び出てきた。
⇒ 法定速度を守っていたこと。他の車がある程度無理な運転をしてくる可能性を想定していたこと。
- ・自転車の高校生が一時停止していた車のかげからいきなり出てきた。
⇒ 一時停止して相手の車を先に行かせようとしてしばらく停止していたため、飛び出てきた自転車と衝突しないで済んだ。
- ・停車中の車の間から高齢者が飛び出てきた。
⇒ 予測して運転していたため。

【“車対車”によるヒヤリハット】

“車対車”によるヒヤリハット事例をみると、「他車の無理な運転」によるものが31例、「他車の予測できない動き」によるものが14例、「他車の無理な割り込み」によるものが13例ありました。また、自分側の原因として、「確認遅れ」によるものが14例、「死角」によるものが10例、「確認不足」によるものが7例ありました。相手の原因によるものが92例、自分の原因によるものが31例と、相手の原因によるものが自分の原因によるものよりも3倍近く多くありました。

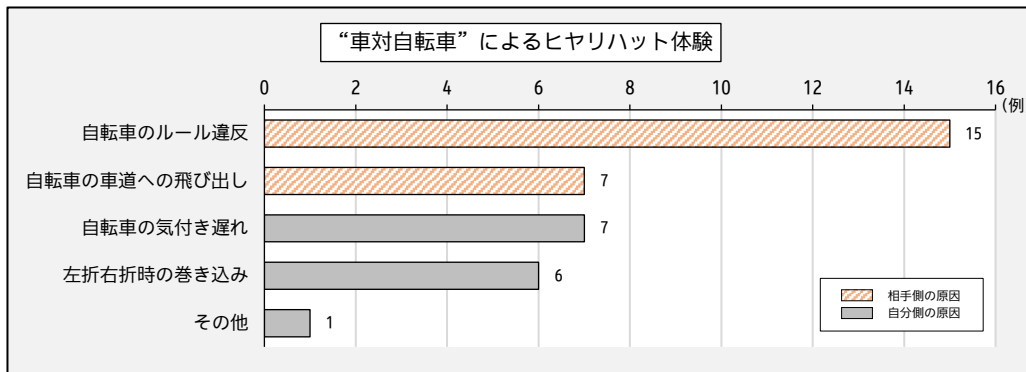


具体的な状況となぜ回避できたか

- ・見通しの悪い交差点で右折しようとした時に、直進車が猛スピードで交差点に入ってきた。
⇒ 危険な交差点だと感じていたため。直進車が見えづらいので、慎重に運転していた。
- ・止まれの標識が樹木の枝に隠れて停止しないで進みそうになった。
⇒ 普段からあまりスピードを出さないから。安全な運転を心がけているから。
- ・幹線道路に出ようとした車が一旦停止しなかった。
⇒ 一旦停止しないかもの意識を持って減速し、停車することができた。
- ・国道交差点で右折信号に従い右折しようとしたところ、対向車が信号無視して直進してきた。
⇒ 右折可能な矢印が出ていても相手が止まるのを確認してから右折するように心がけているから。

【“車 対 自転車” によるヒヤリハット】

“車 対 自転車” によるヒヤリハット事例をみると、「自転車のルール違反」によるものが15例、「自転車の車道への飛び出し」及び「気づき遅れ」によるものが7例、「左折右折時に巻き込みそうだった」ものが6例ありました。

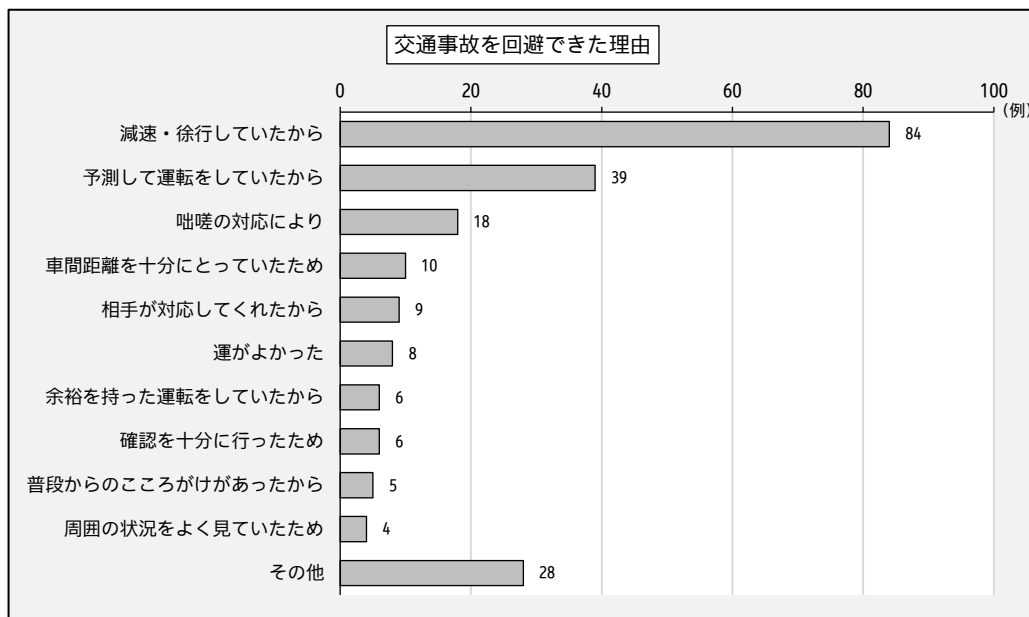


具体的な状況となぜ回避できたか

- ・夜、駐車場から左折で道路に出ようとしたとき、右からきた無灯火の自転車に気づかなかった。
⇒ 歩道・車道に出る前の一時停止、複数回の左右確認。
- ・自転車の高校生が、段差を避けようと車道を大きくはみ出してきた。
⇒ 危険を予知していた。制限速度内で走行していた。
- ・車で右左折時に自転車が猛スピードで横断していく場合があり、目視確認の範囲外から突然現れる感じがして、危険を感じた。
⇒ 通勤通学時間帯は、事故が起きやすいと思い、注意していたから。
- ・左折しようとしたら後方から自転車が近づいてきて接触しそうになった。
⇒ 左折する際にもしもの時を考えてきちんと減速していたからだと思う。

13 なぜ事故を回避してヒヤリハットで済んだか

なぜ事故を回避できたかという問に対し、「減速・徐行していたから」という回答が84例、「予測して運転をしていたから」という回答が39例ありました。相手の原因によるヒヤリハット事例が多いことから、相手の急な飛び出しやルール違反をするかもしれないという「予測」をしながら、「～かもしれない」と感じたときはいつでも止まれるスピードに「減速・徐行」することが事故を防ぐために効果的であると考えられます。



14 運転中や歩行中に危険だと感じた箇所

場所の特定ができたもの、複数あげられていたものに関し、地図上に赤印で示しました。
 通行する際にはより3つの10運動をこころがけるなど、事故のリスクを減らす行動を取りましょう。

【市役所周辺】



	場所	理由
①	開成山公園からモノリス前の横断歩道	カーブになっており、見通しが悪い 横断しようとするが停止しない車が多い
②	本庁舎と西庁舎の北側交差点	横断しようとしても停止する車は少ない
③	本庁舎の東側の南北に走る道路	通勤通学の時間帯において歩行者を含め交通量が多い うに道幅が狭い 点滅信号のある交差点では、東西に渡ろうとすると き、南北に走る車が見えにくい
④	郡山女子大学と郡山女子大附属高等学校 の間の道路	通勤通学の時間帯において歩行者を含め交通量が多い うに道幅が狭い
⑤	開成山大神宮の脇道から49号線にでる箇 所	看板が設置してあり、北側からくる歩行者や自転車が 見えにくい
⑥	開成山公園南側入り口付近	コンビニから公園に向かう歩行者が車の間から飛び出 してくることが多い
⑦	郡山しんきん開成山プール南側と泉屋酒 店東側の三叉路	通勤通学の時間帯は交通量が多い上に、道路横断者が 多い
⑧	上下水道局出入口付近	通勤通学時間帯は自転車を含め交通量が多いうに道 幅が狭く、見通しが悪い
⑨	安積黎明高校前の丁字路交差点	赤信号にも関わらず横断する自転車が多い
⑩	開成五丁目の文化通りから1本南の東西 にわたる道路	通勤時間帯に左折する車で渋滞している脇を、49号線 に右折で出たい車がスピードを出して追い抜きをして おり、危ない



	場所	理由
⑪	久留米交番から49号線までの道路	通勤通学時間帯は、中学生の通学も含め交通量が多い上に、電柱等で道幅が変わる箇所があり、狭い
⑫	内環状線と静御前通りの交差点	内環状線を北進する際、交差点を過ぎると左カーブになっているため、追い越し車線を走行中の車が走行車線に寄ってくることもあり、危険
⑬	図景2丁目交差点	昭和通りは2車線であるが右折レーンがないため、右折車があると後ろの車両が急な車線変更をする場合が多い



	場所	理由
⑭	コスモス通りとうねめ通りの交差点	交差点がカーブしているため、北側から南側に向かってくる車がウinker右を点灯した場合でも、西側に曲がる車と南側を直進してくる車があるため、予測発進は危険である
⑮	うねめ通り（ビックハート付近）	信号機のない道路を横断する車や歩行者、自転車がも多く危険である



	場所	理由
①⑥	島ご道橋東	橋の両端は、赤信号の点滅で一時停止となっているが、本来停止すべき白線がある側道前で停止せずに、点滅赤信号前で停止する車があり、危険である
①⑦	4号バイパスと郡山湖南線との立体交差点	立体交差合流地点は、乗る車と降りる車がスクランブルになっているため危険である

交通事故多発地点に注意

交通安全の発生場所 (2019年) 交通事故発生地
 交差点 68%
 歩道 21%
 歩道交差点 78%

「ゆずる笑顔と思いやり 無事故で明るい郡山」
 ・横断歩道は歩行者優先
 ・自転車は左側通行
 ・マナーじゃなくルールです！

笑顔を未来につなげよう
セーフコミュニティ こおりやま

交通事故多発地点も併せて確認し、交通事故ゼロを目指しましょう！



PDFはこちらから



Googleマップでの表示はこちらから

アンケートにご協力いただきありがとうございました。
 ヒヤリハット体験や危険箇所については、
 気が付いた点があれば随時セーフコミュニティ課までご連絡ください。
 次回のアンケート調査は12月を予定しています。